



神奈川県歯科医師会  
大野 肅英

「歯の博物館」館長

# 日本の 「木の入れ歯」

日本の木の入れ歯は、世界で一番古いことを知っていましたか。

テレビの「何でも鑑定団」や「トリアの泉」で取材を受けて放映されました。

## 世界で一番古い

### 仏姫の木の入れ歯

わが国で現存している木の入れ歯は、和歌山市の願成寺の尼僧、通称「仏姫」が入っていた木の入れ歯です。仏姫は、天文七年（一五三八）に亡くなったので、それ以前に木の入れ歯が作られていたことになりま

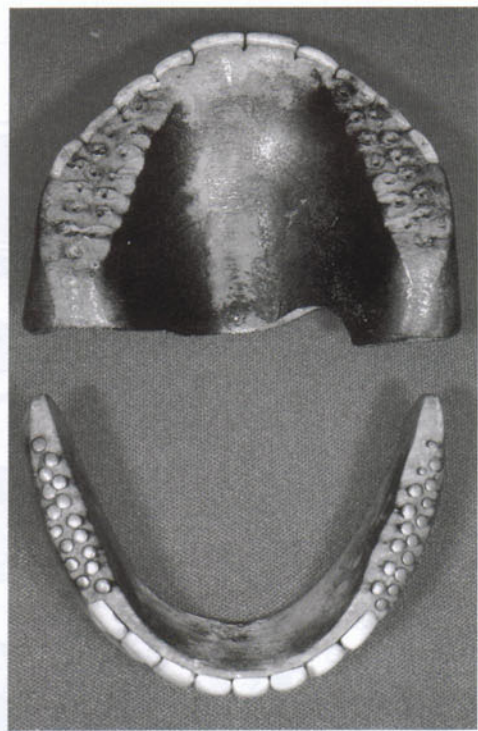
す。なんと、今から四百六十七年前

のことです。前歯も顎の部分も、全体が木で彫刻され、奥歯の咬む面もすり減っていました。

## 將軍家の剣術指南役 柳生宗冬の木の入れ歯

徳川將軍の剣術指南役、又十郎こと柳生飛騨守宗冬（一六七三年没）の黄楊製の入れ歯で、蠟石の前歯を埋め込んであります。

この入れ歯は、昭和二年六月十七日に東京下谷広徳寺の柳生家の墓所から発見されました。これをヒントにして、作家、五味康祐は「柳生武



芸帳」（昭和三十一年刊）を書いた

のです。小説には、忍者がお歯黒のように、黒い前歯がついた女性用の入れ歯を入れて「くの一忍者」に变身する話が出てきますが、これは作家の創作で事実ではありません。

柳生宗冬の木の入れ歯は、前歯は左右四本ずつ蠟石の歯が彫刻され、黄楊製の入れ歯に差し込んであります。蠟石の前歯には、抜け落ちないように横穴が開けてあり、三味線の糸を通して内側の穴から出して結んであります。奥歯は、真鍮の鋏を打ち、硬い食べ物も噛めるような工夫がしてありました。

## どのような人が 入れ歯をつかったか

木の入れ歯は、仏師の手なぐさみから始まったと言われています。その理由は、鋳造仏が増えて木彫仏の注文が少なくなり仏師が失業し、彫刻技術を活かして入れ歯師に転向したのです。

仏師だけではなく、「装剣奇賞」天明年（一七八一年）という本には、五十四人の根付師のうち二人が入れ歯師を兼業していたとあります。江戸時代になると、入れ歯づくりを専門にする入れ歯師という職業ができ、小野玄入、長井兵助、関口永蔵、竹澤伝次などの有名な入れ歯師がいました。

## どのようにして 入れ歯を彫ったのか

入れ歯を作るには、蜜蠟を顎に圧接、これに合わせて陽型を作って黄楊の木に合わせて、少しづつ鑿で彫っていきました。微妙な調整は口中でおこない、朱を顎に塗って入れ歯を入れ、当たっている所を削ぎました。前歯は、蠟石、動物の骨、象牙を彫刻し抜けた人の歯を使い、女性用には黒檀、黒柿の木でお歯黒のようにしたのです。